

潮来市の誇れる文化 第153回

元々水生植物の宝庫である潮来は、アヤメなど湿地植物の繁茂が見られ、古くから人々の目を楽しませてきた。

先の世界大戦中、食料増産のため米作田と化した「アヤメ園」は、昭和25年から復活の動きが活発になり、この年に在京の成功者の寄付により、明治神宮菖蒲園から花菖蒲を購入、水雲橋たもとでアヤメ園への復興が始まった。この頃には、「国立公園指定」を目指し、地元で期成同盟が結成され、国会への請願などの運動が始まっている。運動と並行して菖蒲の大増植はもとより、柳やポプラ、桜を数千本植樹するなど、公園としての環境整備を進めるとともに、国際観光ホテル学校から講師を招き、観光業従事者の研修を行うなど、観光客の受入れ体制整備にも力を注いだ。

昭和30年代にバス観光が盛んになり、潮来は首都圏から手軽に行ける観光地として脚光を浴びた。きっかけの一つに、昭和30年、水辺の町潮来を舞台にした美空ひばり主演映画「娘船頭さん」の公開があり、観光客は飛躍的に増加していった。昭和27年に始まった「あやめまつり」も規模を拡大、昭和34年3月「水郷国定公園」として全国20番目の指定を受けると、この年のあやめまつりは国定公園指定記念行事を盛り込み、16日間で35万人、3か月間で延べ100万人の観光客が訪れたという。

観光客向けに行われる、娘船頭さんとして昔ながらの姿の女性船頭が、潮来船着き場から常陸利根川を渡り、対岸の加藤洲地区の細い水路に架かる12の橋を観光田舟で巡る「十二橋めぐり」は、水郷情緒を満喫できると好評を博した。女性船頭が巧みに舟を操る姿は、アヤメとともに水郷を代表する景観になった。

初代が昭和10年に架橋された水雲橋は、水郷潮来のシンボルとして長らく親しまれてきたが、昭和46年、前川の治水対策として前川水門橋工事（昭和48年完成）が着工されたことにより、姿を消すことになった。これを惜しんで水雲橋の再建に乗り出し、昭和51年遂に鉄骨アーチ型「三重橋」「新水雲橋」が誕生。次いで昭和30年代に架橋されていた上米橋・まこも橋に続き、このころ次々と橋が架けられた。こうして昭和53年には、前川十二橋をめぐる遊覧船運航が始まり、現在に続いている。

【参考文献】

植田俊雄監修「図説鹿行の歴史」（2003、郷土出版）

『潮来町史』（1996）

日高昭「利根川―場所の記憶―」（2020、翰林書房）



潮来市文化財保護審議会委員 羽生 正郎

潮来市の誇れる自然 第93回

公開シンポジウム「霞ヶ浦流域研究2026」が大盛況

2月上旬、潮来市内は強烈な寒波と大雪に見舞われましたが、そのあとは少しずつ春らしくなってきました。学生たちの野外調査がはじまる前の3月7日、茨城大学水圏環境フィールドステーション主催の公開シンポジウム「霞ヶ浦流域研究2026」が、レイクエコーで開催されました。霞ヶ浦流域などで調査・研究を行う高校生・大学生、県の水産試験場や霞ヶ浦環境科学センターの研究者、市民などが一堂に会し、最新の成果を報告しました。今年も□頭発表7題、ポスター発表14題で、70名ほどが参加しました。

今年も発表内容は多岐にわたりました。例えば、霞ヶ浦・北浦の水質の長期的変化、水質と気候変動との関係を解析したもの。霞ヶ浦の水産物については、夏季の高水温がワカサギ資源に与える影響のほか、外来魚アメリカナマス（写真）の食資源活用の可能性など。外来植物や在来植物の分布・生育状況、湖内のユスリカ群集動態に影響を及ぼす要因、湖底堆積物の特性、ヨシ帯の魚類相の効率的なモニタリング法、オオタナゴやギバチ、トウヨシノボリ、ボウズハゼなど魚類の生態・生活史、茨城県沿岸海域の魚類相、福島県の帰還困難区域での放射性物質の挙動など。幅広い世代と研究分野の方々が集まることで、情報交換の時間はたいへん盛り上がりました。

公開シンポジウム - 学生・研究者・市民の発表会&交流の場 -
霞ヶ浦流域研究2026
 2026年 3月7日(土)
 会場：レイクエコー（茨城県鹿行生産学習センター）1階 大研修室
 12:30~16:00（受付開始 11:45）
 参加費無料、参加費 3/2（月）まで（定員先着100名）
 参加登録はホームページから（https://www.cues.ibaraki.ac.jp/）

プログラム

- 12:30 開会
- 12:35 □頭発表（朝）
- 13:00 休憩
- 13:30 □頭発表（昼）
- 14:00 質疑応答
- 14:45 ポスターセッション&懇話会
- 16:00 閉会

ポスターセッション 14題 ※3F9F16、発表時間 14:45-15:15、観覧時間 15:15-15:45

これからも霞ヶ浦流域の生徒・学生・研究者・市民のみならず、教育・研究を続けて参ります。ご理解とご協力のほどをお願いいたします。

茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション

金子誠也・加納光樹